

6 働く親の親役割行動と意識：就労特徴が子供との接し方に与える影響

藤本哲史

1. 分析課題

- (1) 就労時間や通勤時間などの就労条件は、働く親たちの子供と接する頻度や親としての役割意識にどのような影響を与えるか。
- (2) 子供と接する頻度は、働く人々の親としての役割意識にどのような影響を与えるか。

アメリカでは、母親の就労が定着化し家族機能が急速な変化を遂げているにもかかわらず、働く人々の家族役割に対する企業の対応変化は遅い。このような状況を反映して、仕事と家族生活の摩擦 (Work-Family Conflict, WFC) に関する研究が増加した (e.g., Galinsky and Stein, 1990; Greenhaus and Parasuraman, 1987; Pleck, Staines, and Lang, 1980)。仕事や雇用の特徴が家族生活に及ぼす影響についての研究も多く存在する (Galinsky, 1988; Galinsky and Hughes, 1987; Hughes and Galinsky, 1988; National Council of Jewish Women, 1988; Presser, 1987; 1988; Pleck, Staines, and Long, 1980; Staines and Pleck, 1983)。しかし、WFCの先行研究には2つの問題点が存在する。

第1に、家族生活における具体的な何が仕事との摩擦対象として捉えられているのか明確でないことが多い。つまり、ワーク・ファミリー・コンフリクトにおける「ファミリー」の部分の広範囲なものとして捉えられ、家族生活のどの側面 (例えば、家事なのか育児なのか、また育児であれば子供の食事の準備なのか、一緒に遊ぶことなのか、など) が仕事とコンフリクトを起こしやすいのかが曖昧になりがちである。これまでの多くの研究が示すように、仕事と子供、すなわち職務上の役割と親役割のバランス化は働く人々にとって重要なストレス源となる (e.g., Hock, McBride, and Gnezda, 1989; Hofferth, 1992; McBride, 1990; McCartney and Phillips, 1988; McEnroe, 1991; Presser, 1987)。アメリカにおいて3歳以下の子供の母親の約6割が雇用されている現状 (Shank, 1988) を照らし合わせて考えると、家族生活の意味を広範囲にとりWFCを考えるより、むしろWork-Child Care Conflictという限定化した問題として見る方が有効であると思われる。

第2の問題点として、これまでの研究では、仕事と家族の摩擦を心理的な状態として捉える傾向が圧倒的に強く (e.g., Thomas and Ganster, 1995)、WFCの測定尺度も心理面に重点を置いたものが多い点が挙げられる。例えば、Bohen and Viveros-Long (1981) による16項目尺度では、摩擦的と思われる生活状況に関する個人の認知を測定対象としている。この尺度では16項目のうち9項目において "I feel.." および "I worry..." という表現が用いられ、心理的コンフリクトの意味合いが強い。Kopelman, Greenhaus, & Connelly (1983) らによる測定尺度も、ほぼ同様に心理的なWFCの捉え方をしている。

このような心理的アプローチでは、仕事と家族の摩擦状態を客観的に捉えることが困難であるように思われる。つまり、具体的に家族生活に何が起きているのかが見えにくい。

上記の Bohen and Viveros-Long による尺度の一項目を例に挙げると、"I worry whether I should work less and spend more time with my children." というフレーズを用いて子供と過ごす時間の少なさからくる心理的ストレインの度合いを測定している。子供と過ごす時間の多少は、この変数においてはあくまでも背景である。しかし、子供と過ごす時間の長さが何によって影響されるのか（例えば、仕事の特徴など）という問題について触れる場合は、この項目では十分な対応はむづかしい。心理的アプローチでは、心理的葛藤イコールWFCと捉える傾向があるが、上で示した例の場合、親の心理的葛藤は子供と過ごす時間が少ないという客観的コンフリクト状況の結果であり、親が子供と接する時間が少ないこと自体最も根源的なコンフリクトであると考えられることもできる。このような角度から問題を検討するためには、より客観的な指標（特に、家族内での活動の頻度やそのために費やされる時間など）が必要である。そして、その客観的に捉えられた家族生活の状況と仕事のあり方との関係を見ることにより、WFCの実像を探ることが可能になると思われる。

以上の二つの問題点をもとに、本分析では、就労条件が働く親たちの子供と接する頻度（朝食や夕食を子供と一緒にとる回数、子供と遊んだり話をする頻度など）や親としての役割意識（親としての役割を十分に果たしているか、子育てを重荷に感じるか等の意識）にどのような影響を与えるかを探索的に検証する。また子供との接触頻度は親役割意識にどのような影響を与えるのかを検証する。

2. 分析方法

2.1 サンプル

分析に用いたサンプルは、65才以下で1週間あたり10時間以上働いており、18才以下の同居の実子または養子・継子がひとり以上いる回答者に限定した。

2.2 分析に用いた変数

2.2.1 従属変数（詳細は Table 1 を参照）

- ・ 1週間に子供と一緒に朝食をとる回数
（結果表中の変数名：Number of Days per Week Eating Breakfast with Children）
- ・ 1週間に子供と一緒に夕食をとる回数
（結果表中の変数名：Number of Days per Week Eating Dinner with Children）
- ・ 親役割からの解放に対する期待感
（結果表中の変数名：Expectations for Freedom from Parental Responsibility）
- ・ 母親の雇用が就学前の子供に与える影響に関する意識
（結果表中の変数名：Preschool Children Suffer from Maternal Employment）
- ・ 本人の親役割に関する自己評価
（結果表中の変数名：R's Self-Evaluation of Parenting）

2.2.2 独立変数： その1 就業・仕事の特徴

- ・ 就労時間（結果表中の変数名：Hours of Work per Week）

分析の簡素化の為、1週間あたり40時間をカットオフポイントとしダミー変数化し

て用いた。(1 = 40時間<、0 = 40時間≥)

- ・通勤時間(結果表中の変数名: Hours of Commuting)
オリジナルの変数の平均値が18分であった為、この時間をカットオフポイントとしダミー変数化して用いた。
(1 = 18分<、0 = 18分≥)
- ・就労形態(結果表中の変数名: Employment Status)
(1 = 雇用、0 = 自営および family business)
- ・副業の有無(結果表中の変数名: Second Paid Job)
(1 = 副業あり、0 = なし)
- ・不規則勤務パターン(結果表中の変数名: Irregular Work Schedule)
勤務の時間や曜日が不規則に変化するかどうかをダミー変数として測定した。
(1 = 不規則、0 = 規則的)
- ・仕事に伴う出張(結果表中の変数名: Work-Related Overnight Travel)
(1 = あり、0 = なし)

以下の3変数は親役割行動に関するものだが、本分析では独立変数として扱った。

- ・子供と一緒に遊ぶ頻度
(結果表中の変数名: Frequency of Playing with Children)
- ・子供と会話をする頻度
(結果表中の変数名: Frequency of Having Private Talks with Children)
- ・子供に本を読んだり宿題を手伝う頻度
(結果表中の変数名: Frequency of Helping with Reading or Homework)

2.2.3 独立変数: その2 コントロール変数

- ・性別(1 = 女性、0 = 男性) ・年齢(実数値) ・学歴
- ・人種(1 = white, 0 = その他の人種) ・婚姻状況(1 = married, 0 = その他)
- ・年収(実数値) ・就学以前の子供有無(1 = あり、0 = なし)

上記の変数を用いて、(1) 仕事特徴を比較の基軸とした子供との接し方・育児意識における平均値比較、(2) 子供との接し方を従属変数、仕事特徴を独立変数とした多重回帰分析、(3) 育児意識を従属変数、仕事特徴および子供との接し方を独立変数とした多重回帰分析を行った。いずれの多重回帰の場合も個人属性をコントロール変数として投入した。

3. 分析結果

ここでは、特に意味のあると思われる結果のみを取り上げていく。分析結果の詳細は結果表を参照のこと。

3.1 平均値比較: 就労時間と通勤時間(Table 1)

朝食を子供と共にとる回数をみてみると、1週間の就労時間が40時間以上の者の方がそれ以下の者よりも回数が多いことがわかる。一般的には、仕事の拘束が多くなるにつれ

て、このような接触回数は減少するだろうと予想できるが（始業前出勤の可能性など）、この結果は逆であり、就労時間の長い親ほど意識的に子供と朝食を一緒にとろうとしている可能性を示している。この可能性は、子供と遊ぶ頻度の結果にもうかがえる。夕食の場合も同様の傾向ではあるが、就労時間の間での格差は小さく、1週間あたりの回数も朝食の場合より多い。

就労時間と関連して興味深いのは、母親の雇用が就学前の子供に与える影響に関する意識と、本人の親役割に関する自己評価の結果である。1週間の就労時間が40時間を越えるの方がそれ以下の者に較べて自分の親役割をより肯定的に(well done) 評価しているが、同時に40時間以上のの方が母親の雇用は就学前の子供に悪影響を与えると、より強く感じていることがわかる。自己評価が高いことは、時間的拘束が強い仕事と子供の世話を両立させようとしている努力の反映と読めるが、その高い評価は就学前の子供に対する悪影響というネガティブな意識と併存し、ジレンマとなる可能性を示している。

通勤時間と朝食回数をみてみると、結果は就労時間の場合と対照的である。通勤が18分以下のの方がそれ以上かかる者よりも朝食を共にとる回数が多いことがわかる。明らかに、通勤に平均以上の時間がかかる場合、それは子供と朝食をとる機会を減少させる。

3.2 多重回帰分析

多重回帰では、まず全てのサンプルを対象に分析を行い、次に就学前の子供がいるサンプルとないサンプルの2グループに分け、それぞれに対して分析を行った。ここでは、仕事の特徴が子供との接触頻度にどう影響するか、また仕事の特徴や子供との接触頻度は親役割意識にどのような影響を及ぼすかのみに焦点を絞り、コントロール変数の影響については省く。

全体的にみて、就労時間や通勤時間は子供との接触頻度を減少させる傾向にあるが、影響の度合いは就学前の子供がいる場合とそうでない場合とで異なる。Table 2にあるように、就労時間は就学前の子供の親が子供と夕食をとる回数を減少させる($b=-.73$, $p<.01$) が、就学前の子供を持たない親に対しては殆ど影響はない($b=.04$, n/s)。また、通勤時間も就学前の子供の親の子供との朝食回数を減少させる($b=-.82$, $p<.05$) が、就学前の子供を持たない親に対する影響は弱い($b=-.05$, n/s)。ほぼ同様の傾向が、就労時間が子供と遊ぶ頻度に与える影響、および通勤時間が子供と会話をする頻度に与える影響にもみられる(未報告結果)。しかし意外な結果として、通勤時間と出張(Work Travel)が子供と遊ぶ頻度に与える影響があげられる(未報告結果)。回帰分析の結果によると、就学前の子供を持たない親に対する影響は正であり、通勤時間が平均以上かかる場合の方が子供と遊ぶ頻度が高くなり、また出張義務のある者方が無い者に較べ子供と遊ぶ頻度が高い。

回帰分析から得られた決定係数(b)をみる限り、一般的に仕事の特徴や子供との接触頻度が親役割意識に与える影響は小さい。しかし、いくつかの結果はWFCに対して示唆的であると思われる。例えば、親役割からの解放に対する期待感の分析結果(Table 3)をみると、全体モデルにおいて子供と遊ぶ頻度および本を読んだり宿題をみる頻度が微弱ながら正の効果を与えている。この結果から読み取れることは、仕事をしながら子供と遊んだり宿題をみたりすることは働く親にとって身体的にも精神的にもストレスフルである可能性が高いことである。しかし、もう一方で Table 4 の結果にあるように、子供に本を読

んで聞かせたり宿題をみる頻度が高いほど、母親の雇用によって子供が犠牲になっているという意識は低下する。ジレンマではあるが、このストレスと罪障感の少なさとがバランスをとっているのかもしれない。

子供との遊び、会話、本読みや宿題等は、親役割遂行に関する充足感を高める傾向にある(Table 5)。逆に、そのような充足感を妨げる効果をもつ仕事の特徴もある。例えば、就学以前の子供の親にとって、副業をもつことは強い圧迫感として感じられる可能性が高く、又通勤時間が長いことは不十分な親役割の遂行という低い自己評価につながる可能性が高い(Table 5)。しかし、出張義務が親としての自己評価に正の効果を与えることにみられるように、子供との接触頻度は低下させても心理的には親にポジティブな影響を与えるものもあることは事実である。

4. データ分析上の問題点

4.1 Omitted variables について

WFCを考える場合、本分析で用いた変数以外にも重要な就労特徴変数がある。おそらく最も重要なものは、具体的な職務(例えば、ブルー・カラー職なのかホワイト・カラー職なのか)と産業分類だと思われる。これらは少なくともコントロール変数として回帰式に投入される必要があると思われる。また先行研究が指摘している、上司の対応、つまり上司が従業員の家族生活にどの程度理解を示し、どれぐらい自由を認めてくれているか等の問題。しかし、これら全ての変数がNSFHに含まれているわけではないので、このオMISSIONの問題をどのように解消できるか十分検討する必要がある。

4.2 Non-linearity について

今回の分析では、就労時間と通勤時間が従属変数に与える影響について、リニアな関係を仮定したが、curve linear また log linear の関係が存在するか検証される必要があると思われる。

5. 参考文献

Bohen, H. H., and Viveros-Long, A. (1981) *Balancing Jobs and Family Life*.

Philadelphia: Temple University Press.

Galinsky, E., and Stein, P. J. (1990) "Impact of Human Resource Policies on Employees: Balancing Work/Family Life." *Journal of Family Issues*, 11, 368-383.

Greenhaus, J. H., and Parasuraman, S. (1987) "A Work-Nonwork Interactive Perspective of Stress and Its Consequences." In J. M. Ivancevich and D. C. Ganster (eds.) *Job Stress: From Theory to Suggestion*. New York: Haworth.

Kopelman, R. E., Greenhaus, J. H., and Connelly, T. F. (1983) "A Model of Work, Family, and Interrole Conflict: A Construct Validity Study." *Organizational Behavior and Human Performance*, 32, 198-215.

Galinsky, E. (1988) "The Impact of Supervisor's Attitudes and company culture on work family adjustment." Paper presented at the annual meeting of

- American Psychological Association, Atlanta, GA.
- Galinsky and Hughes, 1987;
- Hock, E., McBride, S., and Gnezda, M. (1989) "Maternal Separation Anxiety: Mother-Infant Separation from the Maternal Perspective." *Child Development*, 60, 793-802.
- Hofferth, S. (1992) "The Demand for and Supply of Child Care in the 1990s." In Booth, A. (ed.) *Child Care in 1990s: Trends and Consequences*. Hillsdale: Lawrence Erlbaum.
- Hughes, D., and Galinsky, E. (1988) *Balancing Work and Family Life: Research and Corporate Application*. In Gottfried, A. E., and Gottfried, A. W. (eds.) *Maternal Employment and Children's Development: Longitudinal Research*. New York: Plenum.
- McBride, S. (1990) "Maternal Moderators of Child Care: The Role of Maternal Separation Anxiety." *New Directions for Child Development*, 49, 53-70.
- McCartney, K., and Phillips, D. (1988) "Motherhood and Child Care." In Birns, B. and Hay, D. (eds.) *The Different Faces of Motherhood*. New York: Plenum.
- McEnroe, J. (1991) "Split-Shift Parenting." *American Demographics*, 13, 491-507.
- National Council of Jewish Women. (1988) *Employer Support for Child Care*. New York.
- Pleck, J. H., Staines, G.L., and Lang, L. (1980) "Conflict between Work and Family Life." *Monthly Labor Review*, 103, 29-32.
- Presser, H. B. (1987) "Work Shifts of Full-Time Dual-Earner Couples: Patterns and Contrasts by Sex of Spouse." *Journal of Marriage and the Family*, 24, 99-112.
- Presser, H. B. (1988) "Shift Work and Child Care among Young Dual-Earner American Parents." *Journal of Marriage and the Family*, 50, 133-148.
- Shank, S. (1988) "Women and the Labor Market: The Link Grows Stronger." *Monthly Labor Review*, 111, 3-8.
- Staines, G. L., and Pleck, J. H. (1983) *The Impact of Work Schedules on the Family*. Ann Arbor, MI: University of Michigan, Institute of Social Research.
- Thomas, L. T., and Ganster, D. C. (1995) "Impact of Family-Supportive Work Variables on Work-Family Conflict and Strain: A Control Perspective." *Journal of Applied Psychology*, 80, 6-15.

Table 1 Mean Comparisons of Parenting Variables by Characteristics of Work:
Hours of Work per Week and Employment Status

	Hours of Work per Week			Hours of Commuting		
	Over 40 Hours	Under 40 Hours	Difference	Over 18 Minutes	Under 18 Minutes	Difference
Number of Days per Week Eating Breakfast with Children	3.88 (2.78)	3.02 (2.66)	.86 ***	2.65 (2.46)	3.10 (2.67)	-.45 *
Number of Days per Week Eating Dinner with Children	5.89 (1.80)	5.64 (1.93)	.25 *	5.47 (2.01)	5.58 (1.92)	-.11
Frequency of Playing with Children (6=almost everyday, 5=several times a week, 4=about once a week, 3=several times a months, 2=once a month or less, 1=never or rarely)	4.49 (1.51)	4.29 (1.45)	.20 *	4.28 (1.49)	4.22 (1.47)	.06
Frequency of Having Private Talks with Children (same as above)	4.33 (1.48)	4.21 (1.43)	.12	4.01 (1.46)	4.21 (1.45)	-.20 †
Frequency of Helping with Reading or Homework (same as above)	4.38 (1.70)	4.27 (1.70)	.11	4.11 (1.67)	4.18 (1.72)	-.07
Expectations for Freedom from Parental Responsibilities (1=Low expectations, 5=High expectations)	3.96 (1.05)	3.90 (1.05)	.06	3.85 (1.06)	3.98 (.98)	-.14 †
Preschool Children Suffer from Maternal Employment (1=Strongly disagree, 5=Strongly agree)	3.26 (1.16)	2.94 (1.17)	.32 ***	2.91 (1.18)	3.00 (1.15)	-.09
Manageability of Parental Responsibilities (7=Manageable, 1=Overwhelming)	4.90 (1.86)	4.83 (1.81)	.07	4.77 (1.82)	4.87 (1.75)	-.10
R's Self-Evaluation of Parenting (7=Well done, 1=Poorly done)	5.86 (1.22)	5.68 (1.25)	.18 **	5.64 (1.37)	5.70 (1.16)	-.06

NOTE: † p < .10; * p < .05; ** p < .01; *** p < .001

Table 2 Unstandardized Coefficients (Standard Errors) Obtained from Regressions of Frequencies of Having Breakfast and Dinner with Children on Characteristics of Respondents and their Work:

	Number of Days per Week Having Breakfast with Children			Number of Days per Week Having Dinner with Children		
	Overall Model	With Preschool Children	Without Preschool Children	Overall Model	With Preschool Children	Without Preschool Children
Sex (1=woman, 0=man)	.24 (.25)	.56 (.44)	.07 (.30)	.38 * (.18)	.07 (.28)	.45 * (.24)
Age	-.00 (.02)	.02 (.04)	-.01 (.02)	.00 (.01)	.02 (.02)	.00 (.02)
Race (1=white, 0=other)	.37 (.24)	.47 (.42)	.42 (.30)	.20 (.18)	.32 (.26)	.22 (.24)
Marital Status (1=married, 0=other)	-.14 (.24)	-.40 (.48)	-.07 (.28)	.67 *** (.18)	.46 (.30)	.71 *** (.21)
Education	.07 (.04)	.10 (.08)	.04 (.05)	.05 † (.03)	-.03 (.05)	.08 * (.04)
Annual Earnings	-.00 (.00)	-.00 (.00)	-.00 (.00)	-.00 (.00)	.00 (.00)	-.00 (.00)
Presence of Preschool Children (1=present)	.58 * (.26)	-	-	.61 *** (.19)	-	-
Hours of Work	-.15 (.24)	-.53 (.43)	.04 (.29)	-.20 (.18)	-.73 ** (.27)	.04 (.23)
Hours of Commuting	-.27 (.23)	-.82 * (.41)	-.05 (.27)	-.02 (.17)	-.13 (.26)	.00 (.21)
Employment Status	-.49 (.38)	-.04 (.68)	-.72 (.47)	-.36 (.29)	-.08 (.44)	-.51 (.38)
Second Job	.17 (.33)	-.04 (.58)	.26 (.41)	.12 (.24)	-.08 (.36)	.19 (.31)
Irregular Work Schedule	.34 (.25)	.13 (.44)	.45 (.30)	-.32 † (.18)	-.24 (.28)	-.37 (.23)
Work Travel	.22 (.31)	.18 (.55)	.21 (.39)	.28 (.23)	.02 (.35)	.39 (.31)
R2	.04	.09	.03	.07	.08	.07

NOTE: † p < .10; * p < .05; ** p < .01; *** p < .001

Table 3 Unstandardized Coefficients (Standard Errors) Obtained from Regression of Expectations for Freedom from Parental Responsibilities on Characteristics of Respondents and their Work

	Expectations for Freedom from Parental Responsibilities					
	Overall Model		With Preschool Children		Without Preschool Children	
	Model 1	Model 2	Model 1	Model 2	Model 1	Model 2
Sex (1=woman, 0=man)	-.17 *	-.25 **	-.35 **	-.54 **	-.04	-.12
	(.08)	(.11)	(.12)	(.20)	(.12)	(.13)
Age	.00	.01	-.00	.00	.00	.01
	(.01)	(.01)	(.01)	(.02)	(.01)	(.01)
Race (1=white, 0=other)	.02	.04	-.04	.13	.07	.01
	(.08)	(.10)	(.12)	(.18)	(.12)	(.13)
Marital Status (1=married, 0=other)	.11	.14	-.02	-.15	.17	.21 †
	(.08)	(.10)	(.13)	(.20)	(.11)	(.12)
Education	.01	-.02	.03	-.01	-.01	-.02
	(.01)	(.02)	(.02)	(.04)	(.02)	(.02)
Annual Earnings	.00	.00	-.00	-.00	.00	.00
	(.00)	(.00)	(.00)	(.00)	(.00)	(.00)
Presence of Preschool Children (1=present)	.12	-.02	-	-	-	-
	(.09)	(.11)				
Hours of Work	-.04	.07	-.15	-.01	.06	.09
	(.08)	(.10)	(.12)	(.19)	(.11)	(.12)
Hours of Commuting	-.12	-.17 †	-.08	-.26	-.12	-.11
	(.08)	(.09)	(.11)	(.17)	(.11)	(.12)
Employment Status	-.10	.01	-.27	-.24	.04	.08
	(.12)	(.16)	(.17)	(.30)	(.18)	(.20)
Second Job	-.03	-.05	-.01	-.17	-.01	.01
	(.12)	(.14)	(.18)	(.25)	(.15)	(.17)
Irregular Work Schedule	.11	.09	-.00	.01	.20 †	.13
	(.08)	(.10)	(.11)	(.19)	(.12)	(.13)
Work Travel	.08	.06	.01	-.02	.16	.09
	(.11)	(.13)	(.16)	(.23)	(.16)	(.16)
Frequencies						
Breakfast	-	.02	-	.02	-	.03
		(.02)		(.03)		(.02)
Dinner	-	.03	-	.02	-	.03
		(.03)		(.06)		(.03)
Playing Together	-	.10 *	-	.14	-	.08 †
		(.04)		(.09)		(.05)
Private Talks	-	.00	-	-.07	-	.02
		(.04)		(.09)		(.05)
Reading/Homework	-	.07 *	-	.13 †	-	.07
		(.03)		(.07)		(.04)
R2	.09	.09	.04	.15	.03	.09

NOTE: † p < .10; * p < .05; ** p < .01; *** p < .001

Table 4 Unstandardized Coefficients (Standard Errors) Obtained from
Regression of Perceived Impact of Maternal Employment on Preschool children
on Characteristics of Respondents and their Work

	"Preschool children suffer if their mother is employed."					
	Overall Model		With Preschool Children		Without Preschool Children	
	Model 1	Model 2	Model 1	Model 2	Model 1	Model 2
Sex (1=woman, 0=man)	-.52 *** (.09)	-.47 *** (.12)	-.42 ** (.14)	-.57 ** (.23)	-.60 *** (.12)	-.49 *** (.14)
Age	.01 * (.01)	.02 ** (.01)	.02 (.01)	.04 * (.02)	.01 * (.01)	.02 * (.01)
Race (1=white, 0=other)	-.11 (.09)	-.18 (.11)	-.06 (.13)	-.03 (.21)	-.15 (.12)	-.18 (.13)
Marital Status (1=married, 0=other)	.26 ** (.09)	.27 ** (.11)	.24 (.15)	.12 (.23)	.27 ** (.11)	.27 * (.12)
Education	-.07 *** (.02)	-.07 *** (.02)	-.10 *** (.03)	-.18 *** (.04)	-.05 ** (.02)	-.04 (.02)
Annual Earnings	.00 (.00)	.00 (.00)	.00 (.00)	.00 (.00)	-.00 (.00)	.00 (.00)
Presence of Preschool Children (1=present)	-.04 (.10)	.14 (.12)	-	-	-	-
Hours of Work	-.02 (.09)	-.07 (.11)	.10 (.14)	-.13 (.22)	-.10 (.12)	-.06 (.13)
Hours of Commuting	-.12 (.08)	-.14 (.10)	-.09 (.13)	-.09 (.20)	-.12 (.11)	-.15 (.12)
Employment Status	-.31 * (.13)	-.46 ** (.17)	-.32 (.19)	-.53 (.34)	-.28 (.18)	-.41 * (.21)
Second Job	-.06 (.12)	-.13 (.15)	.06 (.21)	-.23 (.30)	-.15 (.16)	-.09 (.18)
Irregular Work Schedule	-.11 (.09)	-.06 (.11)	-.26 * (.13)	-.34 (.22)	.00 (.12)	.01 (.13)
Work Travel	.12 (.12)	.13 (.14)	-.01 (.18)	-.27 (.26)	.19 (.16)	.31 † (.17)
Frequencies						
Breakfast	-	.02 (.02)	-	-.00 (.04)	-	.02 (.02)
Dinner	-	.00 (.03)	-	-.02 (.06)	-	-.00 (.03)
Playing Together	-	.04 (.05)	-	-.01 (.10)	-	.04 (.05)
Private Talks	-	-.00 (.04)	-	.10 (.10)	-	-.02 (.05)
Reading/Homework	-	-.09 ** (.04)	-	-.02 (.08)	-	-.11 ** (.04)
R2	.12	.16	.12	.22	.13	.16

NOTE: † p < .10; * p < .05; ** p < .01; *** p < .001

Table 5 Unstandardized Coefficients (Standard Errors) Obtained from Regression of Respondent's Self-Evaluation of Parenting on Characteristics of Respondents and their Work

	Respondent's Self-Evaluation of Parenting					
	Overall Model		With Preschool Children		Without Preschool Children	
	Model 1	Model 2	Model 1	Model 2	Model 1	Model 2
Sex (1=woman, 0=man)	.03 (.11)	-.15 (.13)	-.06 (.16)	-.40 (.25)	.05 (.15)	-.06 (.15)
Age	-.00 (.01)	.02 † (.01)	-.01 (.01)	.03 † (.02)	.00 (.01)	.01 (.01)
Race (1=white, 0=other)	-.37 *** (.11)	-.44 *** (.13)	-.19 (.15)	-.04 (.24)	-.56 *** (.15)	-.59 *** (.16)
Marital Status (1=married, 0=other)	-.06 (.11)	-.04 (.12)	-.13 (.17)	-.32 (.26)	-.01 (.13)	.04 (.14)
Education	.04 * (.02)	-.01 (.02)	.10 *** (.03)	.03 (.05)	.01 (.02)	-.03 (.03)
Annual Earnings	-.00 (.00)	-.00 (.00)	-.00 (.00)	-.00 (.00)	.00 (.00)	.00 (.00)
Presence of Preschool Children (1=present)	.09 (.12)	-.22 (.14)	-	-	-	-
Hours of Work	.10 (.10)	.20 † (.12)	.13 (.15)	.23 (.24)	.06 (.14)	.11 (.14)
Hours of Commuting	-.10 (.10)	-.11 (.11)	-.25 † (.14)	-.44 * (.23)	-.03 (.13)	.02 (.14)
Employment Status	.09 (.15)	.20 (.19)	-.13 (.21)	-.08 (.36)	.36 (.23)	.35 (.23)
Second Job	.23 (.15)	.18 (.17)	.30 (.24)	.28 (.33)	.14 (.19)	.13 (.20)
Irregular Work Schedule	-.02 (.11)	-.15 (.13)	.16 (.15)	-.14 (.25)	-.12 (.15)	-.15 (.15)
Work Travel	.29 * (.14)	.11 (.16)	.55 ** (.21)	.52 † (.30)	.07 (.19)	-.11 (.19)
Frequencies						
Breakfast	-	.00 (.02)	-	-.00 (.04)	-	.00 (.03)
Dinner	-	.03 (.03)	-	.09 (.07)	-	.03 (.04)
Playing Together	-	.10 † (.05)	-	-.00 (.12)	-	.11 † (.06)
Private Talks	-	.12 * (.05)	-	.20 † (.11)	-	.10 † (.06)
Reading/Homework	-	.09 * (.04)	-	.13 (.09)	-	.08 (.05)
R2	.04	.14	.08	.13	.05	.15

NOTE: † p < .10; * p < .05; ** p < .01; *** p < .001

④

重点領域研究「ミクロ統計データ」・公募研究（課題番号08209118）

「家族構造の国際比較のための基礎的研究－公共利用ミクロデータの作成と活用－」

平成8年度研究成果報告書（1）

公共利用ミクロデータの活用による 家族構造の国際比較研究

－米国NSFH調査データの利用を通して－

1997年3月

研究代表者 石原邦雄
（東京都立大学）